

文献一覧

体験話法（自由間接話法）文献一覧

— 1993 年以降 —

鈴木 康 志

はじめに

わが国では*体験話法（自由間接話法）の研究書誌の作成、発表は今までおもにドイツ語・ドイツ文学の研究者によって行われてきました。しかし最新の書誌、保坂・鈴木著『体験話法（自由間接話法）文献一覧 —わが国における体験話法研究』（1993年）からすでに10年以上たち、その後また多くの論文が発表され、さらに最近では体験話法に関する博士論文や著作も書かれ、出版されています。そこで今回1993年以降、わが国の研究者によって発表された体験話法（自由間接話法）に関する文献の書誌を作成することにしました。

最近の特徴は、体験話法に関する論文数が増加していること、また今まではドイツ語、フランス語、英語における体験話法（自由間接話法）の研究が中心であったのに対して、日本語、中国語、スペイン語、イタリア語、ロシア語など様々な言語における体験話法の研究も出てくるようになりました。また今までは文学作品を中心とした文学的な研究が主流であったのに対して、言語学的な研究も増えています。

体験話法に関しては、発表される論文が体験話法の基本研究（Steinberg, Fludernik等）を踏まえていないことが多く、無駄な議論に陥っているのみか、しばしば相変わらずの偏見にとらわれていました。それが1993年に研究書誌を作成した動機の一つですが、研究が多様化した現在でも書誌の重要性は変わらないと思います。また体験話法はマイナーな研究分野と思われがちですが、実はヨーロッパの言語、文化を研究、ないしヨーロッパの

*描出話法、擬似直接話法などとも呼ばれることがありますが、おもな言語の名称は以下の通りです。

Erlebte Rede（ドイツ語）、style indirect libre（フランス語）、Free indirect discourse, Represented speech（英語）、stile indiretto libero（イタリア語）、estilo indirecto libre（スペイン語）、Несобственно прямая речь（ロシア語）、自由間接引語（中国語）。

言語を日本語へ翻訳をしようとするれば、その知識は欠くことのできないものといえます。

本書誌は、1993年以降の論文を発行年順（同年のものではできるだけ発行日順）に記載しました。書誌の内容は、発行年、著者名、論文ないし著書のタイトル、所収雑誌ないし出版社、掲載ページです。また、最後に1993年以前の文献でありながら、1993年の『文献一覧』から漏れたものも記しました。今回は個々の文献の内容について触れることができませんでした。欧米の研究を含め、体験話法（自由間接話法）研究全般に関しては、保坂・鈴木（1993）、鈴木（2005, p. 194~206）が参考になると思います。

この書誌が、今後のわが国の体験話法（自由間接話法）研究、さらに物語論、翻訳論、文学・語学研究一般に多少なりとも参考になればと思います。

- 1993 保坂宗重・鈴木康志：『体験話法（自由間接話法）文献一覧』茨城大学教養部
[1993年以前の文献に関しては上記を参照]

Keizo Kurokawa (黒川敬三): Voice in the First Half of the “Nausicaa” Chapter of Ulysses: Narration and Free Indirect Discourse

「英米文学」(立教大学文学部英米文学科) 第53号 37~54 ページ

黒沢宏和：モダリテート研究の一視点 一体験話法を手がかりに—

「京都ドイツ語学研究会会報」 第7号 47~54 ページ

渋沢 彰：自由間接話法について

「群馬大学教養部紀要」 第27号 223~240 ページ

岡光一浩：“Sterben” の小説技法について

— 「20世紀小説」の先駆者としてのA. シュニツラー—

「ドイツ文学論集」(日本独文学会中国四国支部) 第26号 19~27 ページ

浅若裕彦：オースティン以前・オースティン以後 —自由間接話法に関する一考察—

「Zephyr」(京都大学大学院英文学研究会) 第7号 1~13 ページ

曾根博義：「描写」と「語り手」 —田山花袋の描写論とその実際

『日本文学における「私」』(中西進編) 河出書房新社 147~166 ページ

山口美知代：英語自由間接話法の日本語訳：事例研究と今後の研究への問題提起

「京都府立大学学術報告・人文」 第45号 15~36 ページ

- 1994 三谷邦明：源氏物語の言説分析

—語り手の実体化と草子地あるいは漣標巻の明石君の一人称的言説をめぐって—

体験話法（自由間接話法）文献一覧

『国文学研究』（早稲田大学国文学会）第112集 26～38ページ

黒沢宏和：法陳述の内容表現の多様性について — 体験話法を手がかりに —
『独逸文学』（関西大学）第38号 118～134ページ

黒沢宏和：モダリテートからみたドイツ語の体験話法について
『文体論研究』第40号 61～72ページ

有田 潤：内的モノローグ — 予備的考察・作家研究 —
Waseda-Blätter（早稲田大学ドイツ語学・文学会）1号 85～99ページ

三瓶裕文：心的態度，有標の視点と直接知覚
『ドイツ語学研究2』（千石喬他編）クロノス 233～271ページ

鈴木康志：体験話法・内的モノローグ
『ドイツ言語学辞典』（川島淳夫他編）紀伊國屋書店 226～7, 402～3ページ

三谷邦明：源氏物語の〈語り〉と〈言説〉
— 〈垣間見〉の文学史あるいは混沌を増殖する言説分析の可能性 —
『源氏物語の〈語り〉と〈言説〉』（三谷編）有精堂 9～77ページ

東原伸明：研究史 源氏物語の〈語り〉と〈言説〉
『源氏物語の〈語り〉と〈言説〉』（三谷編）有精堂 159～186ページ

坂本宗重：今なぜ体験話法なのか？ — 体験話法の現在・過去・未来 —
ドイツ文法理論 第55回研究会での講演 10月8日山形大学において

中里見敬：鲁迅「傷逝」に至る回想形式の軌跡— 獨白と自由間接話法を中心に
『日本中國學會報』（日本中国学会）第46集 180～194ページ
『中国小説の物語的研究』（汲古書院）1996年に再録

山口美知代：英語自由間接話法の日本語訳に引用符が与える影響：
Jane Austenの小説と翻訳テキストの比較分析
『京都府立大学学術報告・人文』第46号 1～28ページ

新井美智代：話法に関する諸問題 — 描出話法を中心に —
『むうざ』（ロシア・ソヴェート文学研究会）第14号 128～138ページ

Yamaguchi, Haruhiko (山口治彦): Unrepeatable Sentences: Contextual
Influence on Speech and Thought Presentation
In: *Pretending to Communicate*. Ed. H. Parret, Berlin, New York (Walter de
Gruyter) p.239～252.

- 1995 中山真彦：『物語構造論『源氏物語』とそのフランス語訳について』
岩波書店 特に第6章「作中人物または話法」161～194 ページ
- Suzuki Yasushi (鈴木康志): Die Erlebte Rede in pragmatischer Kommunikation
— Im Vergleich mit „Echoausdrücken“—
「エネルギー」(ドイツ文法理論研究会) 第20号 52～66 ページ
- 大楠栄三：『ラ・レヘンタ』における作中人物の発話を表す言説について
— クラリン自然主義小説観が示す二つの志向の融和—
「言語・地域文化研究」(東京外国語大学大学院) 第1号 35～63 ページ
- 鈴木康志：体験話法とその魔力「基礎ドイツ語」(三修社) 12月号 4～7 ページ
- 柴田徹士：話法と視点 —再考—
『英国小説研究』 第17冊 (英潮社) 所収 1～52 ページ
- 曾根博義：翻訳と日本語の壁 —ジョイス受容史の一側面—
「昭和文学研究」 第31集 1～11 ページ
- 佐藤和代：漱石とジェイン・オースティン —自由間接話法をめぐって—
「人文科学研究」(新潟大学人文学部) 第88号 97～133 ページ
- 鈴木康志：イエニンガー事件について—体験話法が暴露した「過去克服」の脆さ？
「Litteratura」(名古屋工業大学外国語教室) 第16号 65～100 ページ
- 寺倉弘子：「描出話法」とは何か 「日本語学」(明治書院) 11月号 80～90 ページ
- 工藤真由美：『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』
ひつじ書房 (特にⅢの3) 191～210 ページ
- 新井美智代：意識に響く言葉 —Y. カザコフの「青と緑」における疑似直接話法—
「スラヴィアーナ」(東京外国語大学スラヴ系言語・文化研究会) 第10号
129～139 ページ
- Yamaguchi, Michiyo (山口美知代): A Study of Speech and Thought Representation
Model Proposed by Fludernik (1993). With Special Reference to Japanese
「京都府立大学学術報告・人文」 第47号 33～64 ページ
- 1996 中川ゆきこ：発話の伝達モード —TV ニュースの場合—
「Kobe Miscellany」(神戸大学英米文学会) 21号 135～149 ページ
- 野村真木夫：描出 —テキストの研究にかかわる一つの問題提起—
「上越教育大学国語研究」 第10号 31～42 ページ

体験話法（自由間接話法）文献一覧

前田彰一：『物語の方法論—言葉と語りの意味論的考察』
多賀出版 特に第Ⅱ章の5 作中人物の言葉と体験話法 199～213 ページ

三瓶裕文：日本語とドイツ語の体験話法について
—間接話法と自由直接話法の間で—
『一橋論叢』 第115巻 第3号 616～636 ページ

深澤恒男：体験話法の過去形からみた物語の過去形の性質と問題点
『人文科学論集』（信州大学人文学部） 第30号 43～53 ページ

三瓶裕文：体験話法入門「基礎ドイツ語」（三修社） 第12号 17～19 ページ

三谷邦明：『羅生門』の言説分析
—方法としての自由間接言説あるいは意味の重層性と悖徳者の行方—
『近代小説の〈語り〉と〈言説〉』三谷編 有精堂 199～237 ページ

諏訪田清：体験話法に就いての一考察
『人文論集』（静岡大学人文学部） 第47号1 209～228 ページ

中里見 敬：『中国小説の物語論的研究』汲古書院 260 ページ [著書]

Mikame, Hirofumi (三瓶裕文): Markierte Perspektive, perspektivische
Annäherung des Sprechers an das Objekt und direkte Wahrnehmung
— Zur Signalisierung des psychisch-kognitiven Nähe des Sprechers zum Objekt.
In: Sprachwissenschaft Band 21 Heft 4, S.367–420 (特に 398–411 ページ)

1997 川上武志：Free Indirect Discourse を教える
『北海道教育大学紀要（第1部C）』 第47巻 第2号 205～216 ページ

三谷邦明：言語分析の可能性
『入門 源氏物語』（ちくま学芸文庫）所収 あとがき 210～247 ページ

松尾文子：話法で何が伝えられるか
—直接話法，間接話法，エコー発話としての自由間接話法—
『「こころ」から「ことば」へ 「ことば」から「こころ」へ』
佐藤泰正編 笠間選書175（笠間書院）87～100 ページ

深澤恒男：物語の過去形からみた体験話法の機能
『人文科学論集』（信州大学人文学部） 第31号 129～138 ページ

佐藤和代：夏目漱石による『白痴』からの三つの抜き書きについて
—自由間接話法を中心に—
『新潟大学人文科学研究』 第93号 85～107 ページ

蓮見慎太郎：『浮雲』における心理描写を構成する話法形式
— (不完全) 疑似直接話法と (不完全) 同化話法
弘前大学国語国文学 第 19 号 43～59 ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Als Philipp Jenninger nicht das „Musterhafte“ sagte
In: Frankfurter Allgemeine Zeitung 27. Mai 1997 S. 12

鈴木康志：イグナツ・ブービス氏のイエニンガー引用
— イエニンガー事件のあらたな波紋 —
「Litteratura」(名古屋工業大学外国語教室) 第 18 号 120～140 ページ

廣瀬幸生：人を表すことばと照応 (特に第 I 章)
廣瀬幸生・加賀信広著『指示と照応と否定』研究社 2～35 ページ

Kanda, Kazue (神田和恵): Die Erlebte Rede in Georg Büchners „Lenz“
「ドイツ文学研究」(日本独文学会東海支部) 第 29 号 37～50 ページ

高橋節子：「対話」と「語り」のテキストにおける「過去未来」の機能
「HISPANICA」(日本イスパニア学会) 41 号 40～51 ページ

Uchida, Seiji (内田聖二): Immediate contexts and reported speech
In: UCL Working Paper in Linguistics 9 (University College London) pp. 149～175

Kinoshita, Tadataka (木之下忠敬): Sur le statut narratif d'un passage de
Salammô — “faire raconteur par Zaclas” le massacre des Baléares
Équinoxe (Rinsen Books), printemps 1997, No. 14, pp. 71-91

1998 Hirohiko Asawaka (浅若裕彦): Speech and Thought Presentation in Maria
Edgeworth and Jane Austen
大谷學報 (大谷学会) 77 卷 2 号 26～42 ページ

深沢恒男：ギュンター・シュタインベルクの『体験話法』の理論についての考察
「人文科学論集」(信州大学人文学部) 第 32 号 71～78 ページ

工藤庸子：自由間接話法と紋切り型
『恋愛小説のレトリック「ボヴァリー夫人を読む」』東京大学出版会
特に 10. 自由間接話法と紋切り型 169～193 ページ

渡辺伸治：「語り」の日本語の特性について
— 歴史的現在・描出話法・主観性述語 —
「京都ドイツ語学研究会会報」第 12 号 42～60 ページ

寺門 伸: 体験話法としての wissen

体験話法（自由間接話法）文献一覧

<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/german/wissen.html> (12. 6. 1998)

谷昌親：鏡像を毀すナルシス フランスにおけるパゾリーニ
「現代詩手帖・特集パゾリーニ」思潮社 7月号 80～85 ページ

松本 修：「ごんぎつね」における自由間接話法
「読書科学」（日本読書学会）第42巻 第2号 67～72 ページ

高橋節子：Conversación en La Catedralにおける自由間接話法の特異性
「白鷗大学論集」第13巻 第1号 147～176 ページ

神田和恵：アンナ・ゼーガースの『第七の十字架』における語り手の問題
「ドイツ文学研究」（日本独文学会東海支部）第30号 101～114 ページ

鈴木康志：dennに続く思考・発言の再現 — 識別困難な体験話法の一例 —
「ドイツ文学研究」（日本独文学会東海支部）第30号 129～139 ページ

湯浅英男：過去形の文法的機能について — 語りと時制のあいだ —
「ドイツ文学論集」（神戸大学ドイツ文学論集刊行会）第27号 27～60 ページ

山口美知代：自由間接話法と情報の伝達構造：話法・引用の対照研究のために
「京都府立大学学術報告 人文・社会」第50号 61～74 ページ

1999 川口眞理：隠された怒り — 『旅人よ、スパ…に赴かば』の語り —
「研究論集」（学習院大学ドイツ文学会）第3号 141～158 ページ

深澤恒男：体験話法についての考察（1）— 二重視点は「二重の声」なのか？ —
「人文科学論集」（信州大学人文学部）第33号 19～27 ページ

神田和恵：ゲオルク・ビューヒナー『レンツ』の体験話法の日本語訳の可能性
「名古屋大学人文科学研究」（名古屋大学大学院文学研究科）第28号 47～72 ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Materialien für die Erlebte Rede in Erzählungen
bei Thomas Mann (I) Vor „Buddenbrooks“
「Litteratura」（名古屋工業大学言語文化講座）第20号 115～135 ページ

木之下忠敬：フロベールとダニエル・スターン
論集『今こそフロベールを読み返す』名古屋大学文学部フランス文学教室
松澤和宏編 所収 65～80 ページ

Kobayashi, Yasuhiko (小林康彦), Kobayashi Yuria (小林ユリア): Eine Unter-
suchung über die Erlebte-Rede in der Ich-Erzählung „Wanderer, kommst du
nach Spa …“ von Heinrich Böll

「上武大学経営情報学部紀要」 第21号 1～8ページ

神田和恵：アンナ・ゼーガース『第七の十字架』の話法研究
—「共感」の体験話法—

「ドイツ文学研究」（日本独文学会東海支部） 第31号 165～178ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Die schwer erkennbare >Erlebte Rede< in
„Buddenbrooks“

「ドイツ文学」（日本独文学会） 第103号 161～169ページ

中村哲也：『「出口」論争「冬景色」論争を再考する』明治図書 特にI・II章

Hosaka, Muneshige (保坂宗重)・Suzuki, Yasushi (鈴木康志)・Fludernik, Monika
Die erlebte Rede im Japanischen

In: Klagenfurter Beiträge zur Sprachwissenschaft 25, S.31～47.

2000 中里見敬：叙述学与文体学在中国的受容 —評申丹『叙述学与小说文体学研究』
「言語科学」（九州大学言語文化部言語研究会） 第35号 65～82ページ

山口治彦：話法とコンテクスト —自由直接話法をめぐる—
「JELS」（日本英語学会） 17号 261～270ページ

深澤恒男：体験話法についての考察(2) —1人称語り手の問題点—
「人文科学論集」（信州大学人文学部） 第34号 81～87ページ

中川ゆきこ：物語の視点と声
—K. A. Porterの短篇にみる発話と思考表現のレトリック—
「五十周年記念論集」（神戸大学文学部） 403～421ページ

三瓶裕文：視点，認知的距離，心的態度
「ドイツ文学」（日本独文学会） 104号 78～87ページ

西田谷洋：『語り 寓意 イデオロギー』翰林書房 特にI章

神田和恵：内的独白の下位区分としての「内的独白」「内的対話」「内的物語」
—アンナ・ゼーガース『第七の十字架』の話法研究—
「名古屋大学人文科学研究」 第29号 65～78ページ

乙政 潤：日本語物語テキストにおける現在止めが独訳ではPräteritum（過去形）
になる問題について
「会誌」（阪神ドイツ語学研究会） 第12号 31～59ページ

嶋崎 啓：体験話法における過去形の時制変換について

体験話法（自由間接話法）文献一覧

「会誌」（阪神ドイツ語学研究会） 第12号 60～77ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Materialien für die Erlebte Rede in Erzählungen bei Thomas Mann (II) „Tristan“, „Tonio Kröger“ usw.

「Litteratura」（名古屋工業大学言語文化講座） 第21号 53～80ページ

中里見敬：抒情する文言 — 『玉梨魂』の語りと文体—

『中國文人の思考と表現』（村上哲見先生古希記念論文集刊行委員会編）

汲古書院 249～269ページ

乙政 潤：『表現・文体』大学書林 特に10.1.6.4. 言葉の描写 61～71ページ

神田和恵：アンナ・ゼーガース『聖バルバラの漁民一揆』における vox populi の体験話法の特異性

「ドイツ文学研究」（日本独文学会東海支部） 第32号 117～134ページ

野村眞木夫：『日本語のテキスト — 関係・効果・様相—

ひつじ書房 特に第5章 描出表現とテキスト 251～331ページ

東原伸明：自由間接言説の本質とは何か — 「移り詞」から「自由間接話法」へ—
「國文学」 12月号 74～79ページ

神田和恵：『徒然草』32段と104段の体験話法とドイツ語訳をめぐって

日本独文学会東海支部 冬季研究発表会 12月2日 研究発表

Hirose, Yukio (廣瀬幸生): Public and private self as two aspects of the speaker: A contrastive study of Japanese and English

In: Journal of Pragmatics 32, p.1623～1656

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Erlebte Rede versus Indirekte Rede

— Ignatz Bubis zitiert Jennings umstrittene Passage —

in: Zeitschrift für Angewandte Linguistik, Heft 33, S.91–100

2001 山岡 實：『「語り」の記号論—日英比較物語文分析』松柏社

廣瀬幸生・長谷川葉子：日本語から見た日本人 [下]

—日本人は「集団主義的」か—

月刊『言語』 2月号 102～112ページ

川口眞理：『ローエングリーンの死』における体験話法

「研究論集」（学習院大学ドイツ文学会） 第5号 87～105ページ

深澤恒男：体験話法についての考察(3) —理論化への試み—

「人文科学論集」(信州大学人文学部) 第35号 73~79ページ

中島 伸: 間接引用文におけるドイツ語の直示的副詞
「リュンコイス」(日本大学校門ドイツ文学会) 第34号 69~84ページ

東原伸明: 物語文学言説の動態的分析
— <読み>の<時間の循環>と自由間接言説—
「物語研究」 第1号 12~21ページ

前島和也: 自由間接話法と半過去の両義性
「フランス語学研究」(日本フランス語学会) 第35号 87~92ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): Materialien für die Erlebte Rede in Erzählungen bei Thomas Mann (III) „Schwere Stunde“, „Der Tod in Venedig“ usw.
「Litteratura」(名古屋工業大学言語文化講座) 第22号 49~78ページ

新井美智代: 話法の境界上の言葉 —疑似直接話法について—
「ロシア語ロシア文学研究」(日本ロシア文学会) 第33号 73~78ページ

脇本恭子: Goldsmith の *The Vicar of Wakefield* における会話部の考察
—自由間接話法を中心として—
『独創と冒険 —英語学英文学論集—』菅野正彦教授退官記念
中尾・地村編所収 英宝社 297~311ページ

鈴木康志: „Morgen war Weihnachten“ (あすはクリスマスだった?)
—この war は日本語の助動詞「た」に対応するのだろうか?—
「ドイツ文学研究」(日本独文学会東海支部) 第33号 179~192ページ

2002 中島好伸: クライドの発話行為と自由間接話法の関係
『『アメリカの悲劇』の現在』大浦暁生監修/中央大学ドライバー研究会編所収
121~142ページ

倉林秀男: Ernest Hemingway の文体再考 —Thought Presentation を中心に—
「文体論研究」(日本文体論学会) 第48号 85~95ページ

廣瀬幸生: 話し手概念の解体から見た日英語比較
筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究成果報告書
723~755ページ(特に730~33ページ)

和田尚明: 時制現象から見た日英比較 —間接話法と物語文を中心に—
「茨城大学人文学部紀要(コミュニケーション学科論集)」 第12号 11~34ページ

新井美智代: 自由間接話法における「声」

体験話法（自由間接話法）文献一覧

— A. バンフィールドと E. パードウチェヴァー
「スラヴィアーナ」（スラヴィアーナ編集委員会） 第 17 号 31～43 ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): The acceptance of “free indirect discourse”
A change in the representation of thought in Japanese
in: *Reported Discourse*, Edited by Tom Güldemann and Manfred von Roncador
(John Benjamins) p. 109–120.

2003 野村眞木夫：現代語のテキストにおける感情表現
「日本語学」（明治書院） 1 月号 36～44 ページ

鈴木康志：思考・発言再現における人称の変換（Ⅰ）
— 3 人称小説・1 人称小説・2 人称小説の場合 —
「文學論叢」（愛知大學文學會） 第 127 輯 113～130 ページ

新井美智代：言葉のモノローグ性と対話性
— 『ドストエフスキーの詩学の諸問題』における言葉の分類をめぐる —
「ALBA」（東京外国語大学比較文学研究会） 杳掛良彦先生御退官記念号
101～120 ページ

神田和恵：『体験話法研究』 学位（課程博士）論文 名古屋大学 336 ページ

山口治彦：自由間接話法（「直接話法と間接話法」「語る「声」と引用表現」）
『応用言語学事典』 小池生夫編集主幹 研究社 308～310 ページ

鈴木康志：思考・発言再現における人称の変換（Ⅱ）
— 詩・戯曲・対面的コミュニケーションの場合 —
「文學論叢」（愛知大學文學會） 第 128 輯 187～202 ページ

砂川有里子：話法における主観表現
『朝倉日本語講座 5 文法 1』 北原保雄監修・編所収 128～156 ページ

藤井俊博：『今昔物語集の表現形成』 和泉書院 特に第 2 章第 3 節， 第 3 章第 4 節

山口治彦：話法研究に潜む前提：英語話法再考（Ⅰ）
「CLAVEL」 第 1 号 81～92 ページ

山口治彦：対話の話法，語りの話法 — 英語話法再考（Ⅱ） —
「神戸外大論叢」 第 54 巻 第 4 号 15～34 ページ

井上正篤：『カフカ彷徨』 同学社
特に第 2 部 9 章 内面世界の叙述と体験話法の接点 257～265 ページ

新井美智代：エコーとしての言葉 — A. バンフィールド再考—
「むうざ」（ロシア・ソヴェート文学研究会） 第 22 号 32～50 ページ

藤井俊博：物語文の表現と文末形式 — 芥川作品を通して— (上)
「同志社国文学」 第 59 号 12～20 ページ

2004 前田彰一：『物語のナラトロジー 言語と文体の分析』
彩流社 特に第 II 章の 5 語りの技法—体験話法と内的独白 139～162 ページ

中島 伸：ドイツ語文学作品における引用符号適用の問題点
— 「体験話法」にも関連して—
「研究紀要」（日本大学文理学部人文科学研究所） 第 67 号 45～60 ページ

中里見敬：呉研人『恨海』における内面引用の形式
「言語科学」（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会） 第 39 号 1～23 ページ

Suzuki, Yasushi (鈴木康志): *Das futurum praeteriti* in Goethes Wahlverwandtschaften
— Der literarische Text aus der Sicht der „erlebten Rede“ —
in: *Neue Beiträge zur Germanistik*, Band 2/ Heft 5 S.71–80.

藤井俊博：物語文の表現と文末形式 — 芥川作品を通して— (下)
「同志社国文学」 第 60 号 84～95 ページ

浅若裕彦：ジェイン・オースティンの文体論的研究
「大谷大学真宗総合研究所研究紀要」 第 21 号 1～10 ページ

Kanda, Kazue (神田和恵): Die Funktion der erlebten Rede und die des inneren
Monologs im Roman „Das siebte Kreuz“
「ドイツ文学研究」（日本独文学会東海支部） 第 36 号 71～84 ページ

中里見敬：「内面」を創出する：文体論的アプローチ
「日本中国学会報」（日本中国学会） 第 56 号 225～240 ページ

三瓶裕文：ドイツの子どもの本の体験話法について
「言語文化」（一橋大学語学研究室） 第 41 巻 95～114 ページ

2005 藤井俊博：物語テキストの視点と文末表現 「日本語学」24-1 34～49 ページ

野村真木夫：日本語の二人称小説における人称空間と表現の特性
「上越教育大学国語研究」 第 19 号 70～88 ページ

Kinoshita, Tadataka (木之下忠敬): Noms propres subjectivisés dans le style
indirect libre de “L'Éducation sentimentale”

体験話法（自由間接話法）文献一覧

岡山大学文学部研究叢書, 26号 475ページ [著書]

顧那：自由直接話法と自由間接話法における語り手の視点
「言葉と文化」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科）第6号 35～51ページ

鈴木康志：『体験話法 ―ドイツ文解釈のために―』
大学書林 215ページ [著書]

顧那：一人称小説における自由直接話法と自由間接話法 ―日中比較の視点から―
「表現研究」第82号 60～69ページ

幸重美津子：ヴァージニア・ウルフの語り ―話法再考
「テキスト研究」（テキスト研究会）第2号 96～110ページ

顧那：引用文の伝達部における視点と話法
「ことばの科学」（名古屋大学言語文化研究会）第18号 29～46ページ

2006 顧那：自由直接話法と自由間接話法の周辺テキスト
「言葉と文化」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科）第7号 35～50ページ

顧那：自由直接話法と自由間接話法に関する日中比較研究
学位（課程博士）論文 名古屋大学

寺田光徳：ゾラ『獣人』における自由間接話法とポリフォニー
「文学部論叢」（熊本大学文学部）第90号（文学篇）1～25ページ

野村眞木夫：日本語の二人称小説における人称空間と表現の特性 (2)
―コミュニケーションとダイクシスの観点から―
「上越教育大学国語研究」第20号 1～19ページ

上田恭寿：日本語小説における描出表現テキストの描出位置
「表現研究」第83号 1～11ページ

和田尚明：英語の3人称小説における時制解釈
平成15-17年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書（課題番号
15520311）「時制とその周辺領域の統語的・意味的研究」89～134ページ

松本 修：『文学の読みと交流のナラトロジー』東洋館出版社

Kinoshita, Tadataka (木之下忠敬): Poe, Baudelaire et Flaubert: Étude comparative
des phrases au style indirect libre à travers la traduction de Baudelaire
「岡山大学文学部紀要」第45号 45～83ページ

Kinoshita, Tadataka (木之下忠敬): Discours rapports, focalization et effect du transfert de point de vue

「岡山大学文学部紀要」 第46号 (発表予定)

* *

日本語・日本文学に関する文献には野村眞木夫氏（上越教育大学）から貴重な情報をいただきました。記して感謝申し上げます。まだ記入漏れの文献も多々あると思います。また情報をお寄せいただければありがたく思います。

体験話法関連邦訳文献一覧（1993年以降）

- 1995 ヴォルフガング・カイザー：近代小説の発生と危機（保坂宗重訳）
(Wolfgang Kayser: Entstehung und Krise des modernen Romans 1954)
保坂宗重『研究論集（1）』茨城大学教養部 127～159 ページ
- ヴォルフガング・カイザー：だれが小説を語るのか（保坂宗重訳）
(Wolfgang Kayser: Wer erzählt den Roman? 1957)
保坂宗重『研究論集（1）』茨城大学教養部 160～176 ページ
- 1996 フランツ・K・シュタンツェル：物語ディスコース
—その言語学的アスペクトと文学的アスペクト—（鈴木康志訳）
(Franz K Stanzel: Linguistische und Literarische Aspekte des erzählenden Diskurses,
Wien (Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften) 1984)
「Litteratura」(名古屋工業大学外国語教室) 第17号 110～150 ページ
- 2001 リディア・リウ：ホモ・エコノミクスと小説的リアリズムの問題（中里見敬訳）
「言語文化論究」(九州大学大学院言語文化研究院) 第13号 203～229 ページ
(Lydia H. Liu: Translingual Practice: Literature, National Culture, and
Translated Modernity: China, 1900–1937, Stanford: Stanford University Press
1995 (Chapter Four))
- 2002 エリー・ハーゲンナール：中国語における自由間接話法（中里見敬訳）
(Elly Hagenaar: Free indirect speech in Chinese, in: Reported Speech: Forms
and Functions of the Verb, Theo A. J. M. Janssen and Wim van der Wurff ed.
(John Benjamins) 1996)
「言語科学」(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会) 第37号 85～95 ページ

体験話法（自由間接話法）文献一覧

- 2003 ジェフリー・N・リーチ, マイケル・N・ショート 『小説の文体 —英米小説への言語学的アプローチ』 笈壽雄監修 石川慎一郎・瀬良晴子・廣野由美子訳 研究社 特に7章「発話と思考の表出」235～272 ページ
(Leech, Geoffrey N. and Short, Michael H.: Style in Fiction. A linguistic introduction to English fictional prose, London (Longman) 1981)

『体験話法（自由間接話法）文献一覧』（1993年）補遺

- 1944 升本正爾：体験話法の発生
「研究論集」（高岡高等商業学校研究会）17号 220～230 ページ
- 1954 奈良文夫：“Würde + Infinitiv” に就いて「信州大学紀要」第4号 33～48 ページ
- 1955 浄住勤護：Narration and Reported Speech
「熊本女子大学學術紀要」第7巻 第1号 28～45 ページ
- 1957 井畑公男：語り手あるいは視点 —英語学習者にとっての自由間接話法—
「研究集録」（大阪学芸大学附属高等学校天王寺校舎編）43号 141～146 ページ
- 1966 小西甚一：能の特殊視点「文学」（岩波書店）5月号 1～12 ページ
- 1968 池上峯夫：ポルトガル語における描出話法について
「東京外国語大学論集」17号 文学・語学特集号 39～51 ページ
- 1971 土居寛之：カミュの『異邦人』における間接及び自由間接話法の効果
「人文論叢」（福岡大学研究所）第3巻2号 429～448 ページ
- 松本佑志：「Tonio Kröger」における erlebte Rede
「熊本短大論集」42号 211～229 ページ
- 1972 堀野豊明：Represented Speech について
「岡山大学教養部紀要」第8号 75～88 ページ
- 岡野輝男：古代フランス語における自由間接話法の歴史(1)
—起源から12世紀まで—
「研究収録」（大阪大学教養部）第20号 89～112 ページ
- 1973 堀野豊明：Represented Speech について(続) —その意義の一側面—
「岡山大学教養部紀要」第9号 1～17 ページ

- 酒井邦子：キャサリン・マンスフィールド研究
—その作品に見られる心理描写としての描出話法を中心として—
「Sella」(白百合女子大学英文学会) 第2号 67～87 ページ
- 1975 堀野豊明：Represented Speech 覚え書 —発話の再現の場合について—
「岡山大学教養部紀要」 第11号 35～44 ページ
- 1976 上條光子：フランスワ・モーリャックの『パリサイ女』における自由間接話法について
「フランス語フランス文学研究」 第29号 114～116 ページ
- 1978 花輪 光：語り手論のために
「文藝言語研究(文藝篇)」(筑波大学) 第2号 53～73 ページ
- 1979 岡野輝男：古代フランス語における自由間接話法の歴史(2)
「言語文化研究」(大阪大学言語文化部) 第5号 133～153 ページ
- 1982 東島ふみ子：クリングゾル三部作におけるH・ヘッセ
—体験話法の頻出をひとつの手がかりとして—
「独仏文学研究」(岡山大学) 第1号 33～46 ページ
- 1983 外山 昇：自由間接話法について「語学研究」(拓殖大学) 第35号 37～58 ページ
- 1988 坂本育生：話法形式による Philology 研究の一例
—小説における発話と内省に関して—
「英語英文学論集」(鹿児島大学英語英文学研究室) 第19号 47～63 ページ
- 浅香武和：スペイン語の自由間接話法について
「スペイン語学研究」(東京スペイン語学研究会) 第3号 1～12 ページ
- 1989 柳田博明：描出話法の案内役 —小説における now について
「研究論集」(京都外国語大学) 第33号 92～99 ページ
- 清水雅子：描出話法研究 *Women in Love* における Hermione の場合
「川崎医療短期大学紀要」 9号 7～13 ページ
- Yamaguchi, Haruhiko (山口治彦) : On Unspeakable Sentences: A pragmatic Review
In: Journal of Pragmatics 13, p.577-596
- 1990 曾根博義：自由間接話法という鏡「海燕」(2月号) 174～175 ページ
- 1991 八十木裕幸：中間話法の一側面
「北海道教養部研究紀要」(駒澤大学) 第26号 83～100 ページ

体験話法（自由間接話法）文献一覧

- 1992 大楠栄三：＜自由間接話法＞の「視点」について
「言語・文化研究」（東京外国語大学大学院） 第10号 99～108 ページ
- 山口治彦：繰り返せないことば —コンテキストが引用にもたらす影響—
『グラマー・テキスト・レトリック』（くろしお出版）所収 289～320 ページ
- Shimada, Mamoru (島田守): On Free Indirect Thought
「成田義光教授還暦祝賀論文集」（英宝社）所収 245～254 ページ
- 浅若裕彦：『エマ』における話法の交代
「Zephyr」（京都大学大学院英文学研究会） 第6号 15～26 ページ
- 山口美知代：総称代名詞 one と自由間接話法
—ヴァージニア・ウルフへの文体論的アプローチ—
「Zephyr」（京都大学大学院英文学研究会） 第6号 69～80 ページ
- 大野晃彦：『ボヴァリー夫人』におけるテキスト世界の構築と自由間接話法
「慶應義塾大学言語文化研究所紀要」 第24号 251～280 ページ